

診療/研修カリキュラム表

脈管専門医達成目標		
達成目標	検査法・基礎知識	治療法、病態・疾患各論
A	独立して施行または判定できる十分な知識を有する	独立して経験するまたは十分な知識を有する
B	指導者の下で施行または判定できる	指導者の下で経験する
C	指導者の下で見学する	指導者の下で見学する
D	基礎知識を有する	基礎知識を有する

脈管総論		達成目標
A. 脈管総論		
脈管局所解剖	脈管発生	A
	頭頸部脈管解剖	A
	上肢脈管解剖	A
	胸部脈管解剖	A
	腹部脈管解剖	A
	下肢脈管解剖	A
脈管病態	血流力学	A
	止血・血栓	A
	動脈硬化	A
	血管炎	A
	感染	A
	内膜肥厚	A

脈管専門医達成目標		達成目標
B-1. 検査法		
身体所見	脈拍触診など	A
血管機能検査	ABI/PWV	A
	PVR	A
	トレッドミル	A
	NIRS(トレッドミル)	D
	SPP	D
	TcPO2	D
	下肢容積脈波検査	D
	サーモグラフィー	D
	血管内皮機能検査	D
超音波検査	頸動脈エコー	A
	腹部血管エコー	A
	下肢動脈エコー	A
	下肢静脈エコー	A
	経食道エコー	C
血管造影	大動脈造影	B
	下肢動脈造影	B
	下肢静脈造影	D
	MRアンギオ	A
	CTアンギオ	A
特殊検査	血管内視鏡	D
	血管内エコー	D
B-2. 治療法		
一般的治療	フットケア	A
	生活習慣(禁煙・食事・運動など)指導	A
	深部静脈血栓症ストッキング圧迫治療	A
	下肢静脈瘤ストッキング圧迫治療	A
理学療法	非監視下運動療法	A
	監視下運動療法	D
	大血管術後リハビリテーション	D
	リンパ浮腫複合的理学療法	D
薬物治療	抗血小板治療	A
	抗凝固治療	A
	血管拡張剤	A
	血栓溶解剤	A
	抗生物質	A
	脂質代謝改善薬	A
	降圧薬	A
	糖尿病治療	A

血管内治療	バルーン血管形成治療(含stent治療)	B
	カテーテル血栓溶解治療	D
	血栓吸引治療	D
	血管塞栓術	C
	下大静脈フィルター挿入術	C
	頸動脈ステント治療術(CAS)	D
	ステントグラフト内挿術	D
	静脈瘤レーザー焼灼術	D
外科的治療	透析用シャント作成術	D
	カテーテル血栓除去術	D
	筋膜切開術	D
	バイパス術	D
	血栓内膜摘除術	D
	動脈瘤手術	D
	頸動脈内膜摘除術(CEA)	D
	静脈瘤ストリッピング	D
	静脈血栓摘除術	D
	交感神経遮断術	D
下肢切断術	D	
特殊治療	血管新生治療	D
C. 病態・疾病各論		
大動脈瘤	胸部大動脈瘤	D
	胸腹部大動脈瘤	D
	腹部大動脈腸骨動脈瘤	B
	大動脈解離	C
末梢動脈瘤	頸動脈瘤	D
	上肢動脈瘤	D
	大腿動脈瘤	D
	膝窩動脈瘤	D
	その他の動脈瘤	D
内臓動脈瘤	腎動脈瘤	D
	腹部内臓動脈瘤	D
ASO	大動脈腸骨動脈領域	A
	大腿膝窩動脈領域	A
	下腿動脈領域	A
TAO		D
腸間膜動脈閉塞	慢性腸間膜動脈閉塞	D
	急性腸間膜動脈閉塞	D
	非閉塞性腸間膜虚血症	D
腎血管性高血圧症		D
頸動脈狭窄		B

その他の 動脈閉塞性疾患	膝窩動脈捕捉症候群	D
	膝窩動脈外膜嚢腫	D
	胸郭出口症候群	D
その他の動脈疾患	糖尿病性足病変	D
	透析アクセス用動静脈シャント	D
	透析患者重症下肢虚血	D
炎症性動脈疾患	高安動脈炎	D
	Behcet病	D
	側頭動脈炎	D
	膠原病に伴う血管炎	D
感染性疾患	感染性動脈瘤	D
特殊な病態	吻合部動脈瘤	D
	吻合部内膜肥厚	D
	大動脈腸管瘻	D
	大動脈気管瘻	D
急性動脈閉塞	塞栓症	A
	血栓症	A
動脈外傷	頸部	D
	胸部	D
	腹部	D
	四肢	D
静脈血栓塞栓症	深部静脈血栓症	A
	肺塞栓症	A
	静脈血栓後症候群	D
	腸間膜静脈血栓症	D
下肢静脈瘤		A
レイノー病・症候群		D
リンパ浮腫	上肢	B
	下肢	B
先天性疾患	動静脈形成不全	D

【経験症例数 指定疾患】

疾患名	必要最低経験数
大動脈瘤	2
ASO	3
急性動脈閉塞	1
静脈血栓塞栓症	2
下肢静脈瘤／レイノー病・症候群／リンパ浮腫／先天性疾患 から	1